第1号議案　令和元年度事業報告書(案)について

〔説明者：野際照章専務理事〕

事業報告書案をもとに、説明を要する箇所を抜粋して説明する。令和元年度の事業計画は大幅な変更を余儀なくされた。新型コロナウイルスの影響で、2月末日に予定していた全国審判委員長会議、3月に予定していた全国広報担当者会議、千葉県白子町で開催予定の全国小学生大会、三重県伊勢市で開催予定の都道府県対抗全日本中学生大会、愛知県名古屋市で開催予定の全日本高校選抜を中止した。

新規の全日本大会として全日本ミックスダブルス選手権大会は、令和2度から実施する方向で、大分県で準備を進めていたが新型コロナウイルスの影響で中止となった。

Ⅰ.ソフトテニスの普及振興事業について

1．全日本ソフトテニス選手権大会等開催

同様に新型コロナウイルスの影響により、前述の高校生・中学生・小学生大会は中止となった。これらは当連盟の単独開催ではなく、共催大会や実行委員会大会なので、それぞれと検討の上中止となった。

2．加盟団体が行うソフトテニス競技力向上と普及振興支援

ナショナルチーム選手派遣事業は、新型コロナウイルスの影響が出るまでに全て終了したため、予定通り実施できた。大変有意義に推進できた。

3．ソフトテニスの医科学研究事業

ほぼ予定どおり実施した。強化選手だけではなく、一般競技者への教育啓発活動が今後の課題となっている。

Ⅱ．ソフトテニスの競技力向上事業

1．競技力向上

世界選手権国別対抗戦において男女とも優勝という華々しい活躍をみることができた。

2．ソフトテニスの指導者育成

①指導者養成事業の推進

日本スポーツ協会公認のスポーツ指導者育成事業では、新しくコーチ1・2・3・4と名称が変更となり、それに基づいて養成プログラムを作成した。

令和2年度スタートだが残念ながら新型コロナの影響により一部変更しなければならない。

②全国小学生・中学生・高校生指導者の合同研修会

和歌山県で実施し、実技を交えた研修会とした。今まで参加されなかった方の積極参加を求め、研修や研修以外の情報交換など大変有意義であった。

Ⅲ. ソフトテニスの国際振興事業

日本連盟が実施しているもの以外に各県連盟が様々な事業を実施しソフトテニスの国際振興に貢献していただいている。

【各事業を推進するための組織と財政の強化、共通施策】

①競技人口増加対策としては、小中高大のプロジェクトにおいて検討を進めている。新年度になり、財政面でも厳しい状況となっている。この小中高、特に中学生・高校生の状況が改善されないと我々組織の将来の展望がまったく立たないので皆様方にも色々な面で協力をしていただきたい。

②会員数については、過去から見ていくと毎年減少傾向である。中学生の減少率と比べると、ほぼ同様の推移をしている。さらにシニア層への浸透を検討する必要がある。若者の数が減っていく中で若年層を中心にした競技人口の増加は厳しい。各業者と話しをさせていただいているが、ソフトテニスの魅力は中学生の会員数の多さであり、スポーツ関係以外の団体にも魅力を感じていただいている。この部分の魅力が無くなると色々な面で厳しさが増してくるので、各加盟団体内での取り組みの参考にしていただきたい。

③会員登録料は前年から減少の傾向となっている。今後とも会員登録制度の維持、発展についてご支援をいただきたい。

④資産取得については、ソフトテニス普及振興と競技力向上の拠点とするべく、平成25年より計画し積み立てていた。令和元年度において、その積立金を使い、福島県にテニスコート12面を確保した。令和2年より工事を開始するが、気温が低い冬季期間は工事が難しいため、令和3年夏には竣工するよう進めていく。状況についてはホームページやインスタグラム等でお知らせする。

【第1号議案質疑応答】

議長より第１号議案の質疑等について促されたが、質問等は無かった。

【第1号議案の承認】

議長より第１号議案について諮問され、33 名の賛成により承認された。